

平成 26 年度通常(第 1 回)理事会議事録

日 時： 平成 26 年 6 月 14 日（土） 15：00～16：30

場 所： 日本スポーツマンクラブ

出席理事：(敬称略、順不同)

河野博文、植松眞、森山雄一、中川千鶴子、鈴木修、齋藤渉、坂谷定生、平松隆、鈴木國央、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、相澤孝司、餅啓一、平井昭光、森信和、大島茂樹、高間博之、山本嘉一、馬場益弘、井川史朗、剥岩政次

以上 22 名

出席監事：齊藤威、児玉萬平、上野保

以上 3 名

オブザーバー：中村隆夫総務副委員長、柳澤康信広報委員長、永井真美環境委員長、増田開ルール委員長、川上宏レース委員長、名方 ORC 計測委員長、吉留容子レディース委員長、小山泰彦指導者委員長、戸張房子国際委員長、鈴木保夫外洋総務委員長、吉田豊外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長、豊崎謙広報委員、細川敬一事業開発委員、黒川重男レース委員

議事の経過及び結果

(定足数の確認)

理事 27 名、出席者 22 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

(議長による開会宣言)

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 26 年度通常（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

(議事録署名人)

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、天辻康裕、高間博之の両理事が任命された。

河野会長から、評議員会は無事終了した。新任の理事各位からご挨拶をいただきたい。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 平成 26・27 年度名誉総裁・名誉会長・顧問・参与

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 26・27 年度名誉総裁・名誉会長・顧問・参与について説明があった。

平成 26・27 年度名誉総裁候補は高円宮妃殿下、名誉会長候補は山崎達光氏、顧問は、小田切満寿雄氏、戸田邦司氏、秋山雄治氏、前田彰一の 4 名、参与は、大谷たかを氏、

鈴木保夫氏、青山篤氏、小山泰彦氏、桑原啓三氏の 5 名である。定款 28 条理事会の同意を得て会長が委嘱するとの発言があった。

満場一致で承認された。

2) 平成 26・27 年度組織 JSAF 委員会と委員長

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 26・27 年度組織について説明があった。

総務委員長は安藤淳氏、財政委員長は斎藤渉氏、事業開発委員長は角野吉則氏、広報委員長は柳澤康信氏、環境委員長は永井真美氏、レディース委員長は吉留容子氏、ルール委員長は増田開氏、レース委員長は川上宏氏、ワンデザインクラス計測委員長は名方俊介氏、国際委員長は戸張房子氏、医事・科学委員長は山川雅之氏、ドーピング裁定委員長は棚橋善克氏、普及指導委員長は川北達也氏、国体委員長は末木創造氏、オリンピック強化委員長は西岡一正氏、ジュニアユース・アカデミー委員長は中村公俊氏、キールボート強化委員長は中澤信夫氏、オリンピック準備委員長は河野博文氏、外洋総務委員長は鈴木保夫氏、外洋計測委員長は吉田豊氏、外洋安全委員長は大坪明氏、アメリカズカップ委員長は植松眞氏とする。定款第 38 条 理事会の同意を得て、会長が委嘱するとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) 平成 26 年度第一次補正予算（案）

斎藤常務理事から資料に基づき、平成 26 年度第一次補正予算案について説明があった。

平成 25 年度決算報告の時にご説明致しましたように以下の 3 件につきましては昨年度の想定では H25 年度内に導入し H25 年度決算に反映されるものとしていましたが、諸々の事情により導入が遅れ H25 年度決算には反映せず、H26 年度第 1 次補正予算に計上することと致しました。会員システムリニューアル費 4,000 千円、ホームページリニューアル費 3,000 千円、事務局 PC 入替費 800 千円の合計 7,800 千円は、

オリンピック強化委員会は、①補助金等収入は、申請額に対して減額認定となったため減額計上しました。補助金等収入：(当初) 156,592 千円 → (1 次補正) 128,212 千円 (▲28,380 千円) ②事業費支出は、委託金・助成金の減額認定に伴い減額計上しました。JOC 委託費支出：(当初) 65,810 千円 → (1 次補正) 37,436 千円 (▲28,373 千円) スポ振助成金支出：(当初) 50,882 千円 → (1 次補正) 43,612 千円 (▲7,270 千円) TOTO 助成事業支出：(当初) 112,596 千円 → (1 次補正) 108,471 千円 (▲4,124 千円) ③自主事業費・管理費支出につきましては、実態に合わせて修正しました。④この結果、事業活動収支差額は▲2,711 千円となり、当初予算比▲2,816 千円となりました。なお、今後の事業の見直しにより事業費を削減するか事業参加料収入を増加させる

かにより赤字とならないようにする予定です。H25 年度決算は、実質的にほぼ収支均衡の状態だったと判断できるが、本年度は当初予算において賛助会費収入・収益事業収入の増加を見込んでいるところであり、これらのへの取り組みが必要である。今後、東京オリンピック準備等で、連盟として負担増加は避けて通れないことから、賛助会員・寄付金・協賛金等につきまして、皆様のお知り合い等でご協力頂ける法人・団体・個人を紹介いただきたいとの発言があった。

満場一致で承認された。

4) 最高審判委員会規則の改定について

増田ルール委員長から資料に基づき、最高審判委員会規則の改定について説明があった。

3月1日及び5月24日理事会において協議いただいた最高審判委員会規則を一部改定する。現行規則第10条では、国体・国体リハーサル・IJが構成される大会以外の国内大会に、委員がレース委員またはプロテスト委員として参加することを制限していることで、委員のジャッジとしての国内活動の妨げとなっていることから、現行規則第10条を削除する。

現行規則第12条では、委員の過半数の出席を委員会の成立要件としている。前項の提案（第10条の削除）に関わらず、委員の国内大会参加を制限したとしても、第5条2項及び競技規則71に基づき委員の委員会への出席が制限される場合があるため、委員会の成立要件を「出席が制限されていない委員の過半数」と変更したい。現行委員の任期（2年間）は平成25年度（奇数年度）が起点となっており、連盟の公益財団法人への移行に伴い連盟役員の任期の起点が偶数年度

となったことと整合していないことから、任期を会長任期と整合させる必要があるとの発言があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) JSAF レース・オフィサー規程の改訂について

川上レース委員長から資料に基づき、JSAF レース・オフィサー規程の改訂について提案があった。JSAF レース・オフィサー規程の一部改定内容は、公益財団法人日本セーリング連盟の表記を JSAF に統一する、受験資格の推薦での記載統合、受験資格の要件での一部削除、更新のための要件等の改訂であるとの発言があった。

川北理事から、公益財団に移行する際に規程・規則等の変更において、総務委員会から

JSAFを「連盟」に統一して表記した経緯があったことから「連盟」に統一するべきであるとの発言があった。

鈴木専務理事から、次回理事会で審議事項とするとの発言があった。

2) 平成 26 年度行事予定と理事会の進め方

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 26 年度行事予定と理事会の進め方について提案があった。常任委員会、理事会の進め方でご意見があればいただきたい。今後の事務局体制は、会員サービス向上、加盟団体・特別加盟団体との連携、また 2020 年東京オリンピック・パラリンピック等の一部事務負担があることから、各委員会には事務局業務分担を担っていただきたい。また、事務局職員の募集も考慮しているとの発言があった。

坂谷常務理事から、理事会では理事各位からの活発な意見を期待しているとの発言があった。

3) 特別加盟団体申請（逗子マリーナヨットクラブ）

鈴木専務理事から資料に基づき、逗子マリーナヨットクラブの特別加盟団体申請について提案があった。

逗子マリーナヨットクラブから、平成 26 年 6 月 1 日付で特別加盟団体申請があった。提出された会員名簿・団体の会則等・決算報告書は要件を満たしていることを総務委員会で確認している。次回理事会の審議事項とするとの発言があった。

< 報告事項 >

1) 総務委員会

中村総務副委員長から資料に基づき、会員登録システム改訂について報告があった。

会員管理新システムの導入における目的は、会員自身による個人情報の更新や連盟年会費のクレジット決済、コンビニ決済等を実現させ、会員に対するサービスと利便性向上を目指している。今後は、加盟団体事務局で混乱をきたさないように、総務委員会で検討し、加盟団体等実務者レベルに説明を行っていくとの発言があった。

森理事から、個人情報保護の観点も考慮した上で、大会現場で JSAF ホームページ等から会員の確認をできるようにしていただきたいとの発言があった。

坂谷常務理事から、パールレースでは実行委員会で会員情報を確認できるように、会員管理システムを使用させていただいた経緯があるとの発言があった。

天辻理事から、システム運営上で秘密保持契約はしているかとの発言があった。

2) ルール委員会

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

IJ/IU 候補推薦委員会委員を決定した。また、470 全日本におけるアデンドムQ使用ならびに上告否認について承認をした。現在、国内においてのメダルレースは、和歌山インターナショナルレガッタと 470 全日本しかないとの発言があった。

戸張国際委員長から、IJ、IM、IRO 等の推薦候補者等を決定した場合には、国際委員会にも一報いただきたいとの依頼があった。

井川理事から、メダルレースの導入には理事会承認事項となるのか、手続きは緩和できるのか質問があった。

増田ルール委員長から、上告否認はルール委員会の審議、メダルレースはアンパイヤを 6 名そろえないといけないハードルがあるとの回答があった。

3) オリンピック強化委員会

斎藤理事から、オリンピック強化委員会活動報告があった。

第 17 回アジア競技大会の選手派遣は前回理事会で報告した。また、ユースオリンピックに選手・役員を JOC に推薦し、派遣したとの発言があった。

4) 危機管理ワーキンググループ

坂谷理事から、安全・危機管理ワーキンググループ活動報告があった。

JSAF の法的責任は、理事は悪意がなければ問われないが、民事訴訟の際には JSAF が訴訟対象となりえる。海外では民事訴訟例もあり、RYA では専門家で組織された機関がある。今後は主催者保険も含めて検討し、理事会へ報告するとの発言があった。

平井理事から、スキッパー・オーナー責任について、諸外国の危機管理もふまえて検討・提案していきたいとの発言があった。

5) 平成 26 年度臨時第 1 回理事会議事録 (案)

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 26 年度臨時第 1 回理事会議事録 (案) について報告があった。

6) その他

- ① 名方 ODC 計測委員長から、平成 26・27 年度 IM 候補者推薦委員会委員について報告があった。ISAF の認定するインターナショナル・メジャラー(IM)の資格認定申請を行おうとする者について、推薦に関する適否の判断を行う委員会であるとの発言があった。
- ② 天辻理事から、東京オリンピック準備委員会報告があった。6 月 13 日、54 名の参加を得て、オリンピックセミナーを開催した。マスコミ対応、ヘリコプターやプレスポート設備などの経費など今後の課題を検討した。「レガシー」としてオリンピックハーバー施設で何を残せるのか、また、情報の一元化などの仕組み作りが大切である。セミナーの内容は JSAF ホームページに掲載するとの発言があった。

- ③ 川北理事から資料に基づき、文部科学省が支援する「平成 26 年度国際スポーツ人材養成プログラム事業」について報告があった。申請した結果、採択された。普及指導者委員会事業として、穂坂氏を派遣することにした。今後の予定は、RYA、ISAF を視察、ISAF トレーニング哲学を受講して、IRO 資格を取得することを目標とする。この事業は単年度だけではなく、継続して派遣していきたいとの発言があった。

穂坂氏から、8 か月の派遣で、ISAF とのコミュニケーションならびに人脈形成を目標にしたいとの挨拶があった。

- ④ 剥岩理事から、カーク氏の動向について報告があった。鹿児島県の奄美大島に入港、日本文化を堪能されていたとの発言があった。
- ⑤ 山本理事から、和歌山プレ国体の準備状況について報告があった。トラペゾイドコースのシミュレーションを練習するとの発言があった。
- ⑥ 森山副会長から、オリンピック総予算の削減に関する競技団体への配分について質問があった。

河野会長から、強化費を執行する独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）が、新しい強化基金の一元化する予定である。JSC が競技団体へ分配していくことが有力である。スポーツ理念からのスポーツ庁設置についても政府内で法的整備と予算が議論となる。補助金・助成金における競技団体の自己負担金は、JOC では政府支援の強化していただく、自己負担の緩和を期待している。スポーツイベントはもっと国民に理解・支援していただきたい。政府のみに依存するのではなく、民間マーケティング会社などを利用すべきである。議論が本格化しないと不明である。東京オリンピックでは、会場、資材、人件費でコストオーバーを指摘され、セーリングも会場の見直しを要求されている。開催場所は、新しいレガシーをコンセプトにしているとの発言があった。

平成 26 年度通常（第 1 回）理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 26 年 6 月 14 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 天 辻 康 裕

議事録署名人 理 事 高 間 博 之

副 会 長 森 山 雄 一

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 鈴 木 修

常 務 理 事 斎 藤 涉

常 務 理 事 坂 谷 定 生

監 事 斉 藤 威

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保